

第 11 回大分県高大連携シンポジウムを ZOOM オンラインで開催しました

2月18日(金)14:20~17:00 本学経済学部において、「高大連携による数学教育」というテーマで、第11回大分県高大連携シンポジウムを大分県教育委員会のご後援を得て実施しました。県内外より高等学校及び大学関係者など42名がZOOMオンラインで参加しました。



開会行事では主催者である本学教育担当の藤井弘也理事と来賓として大分県教育庁の山田誠司高校教育課参事にご挨拶をいただきました。

基調講演は東京工業大学理学院数学系の加藤文元教授から「高校数学から大学の数学基礎教育への接続について」と題してお話をしていただき

ました。加藤先生は、高校生の創造の芽を育む「数理の翼夏季セミナー」に参加したり、高校で学ぶ範囲を超えて主体的に学ぶ「数理空間トポス」という学習の場で中高生と交流したり、高校での講演会などの活動を通して、高校との連携を積極的にされています。このような経験を踏まえられ、数学における高大連携は、生徒一人一人の個性や能力の伸長が図られることを期待していると話されました。また、2022年度から始まる新学習指導要領では「数学と人間・社会」がキーワードになり、これを理解するには数学史を取り上げてはどうかという提言をされました。



続いて2例の事例発表を行いました。大分



県立臼杵高等学校の菅淳司先生はコロナ禍における数

学教育の例としてMetaMojiという授業支援アプリを使用した授業実践の報告をされました。一斉学習、個別学習、協働学習、課題研究等に幅広く活用されているとのことでした。次に、大分県立大分舞鶴高校の阿部哲士先生は、数Ⅰ・A・Ⅱ・Bの分野毎に例示して、「推測→検証→考察」の学習過程を意識した主体的な学びを育む授業実践の報告をされました。

この後、意見交換会を実施しました。本学から経済学部中本先生、理工学部4年生 山口さん、高校代表の別府鶴見丘高校 脇教頭そして加藤先生、菅先生、阿部先生も加わり、数学の現状と今後の課題について討論をしました。本学の経済数学や解析学、線形代数学の内容、高校での本学入



試問題を取り扱った授業内容や、ICT教育を活用した問題解決学習内容などを話し合わせ、最後に加藤先生は基礎的数学スキル（基礎的数学技能）とは何かについて、高校と大学で共有することが必要ではないかというお話をされました。閉会行事では本学の高大接続担当の足立理事が挨拶をしました。